

出資法人等経営状況報告書

1 作成年月日及び担当部署

作成年月日	令和元年8月27日	担当部署	産業観光交流部 産業政策課
-------	-----------	------	---------------

※以下は平成31年3月31日現在の内容です。

2 法人等の概要

法人等名称	株式会社 よしかわ杜氏の郷				
代表者名	代表取締役 土橋 均				
	<input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤				
	<input type="checkbox"/> プロパー <input type="checkbox"/> 市派遣 <input checked="" type="checkbox"/> 市兼務 <input type="checkbox"/> その他				
所在地	新潟県上越市吉川区杜氏の郷1番地				
設立年月日	平11年3月21日	資本金	184,150千円	市出資割合	82.6%
設立目的	酒米の生産と地酒醸造による消費者との結び付きにより地域農業の発展、農家所得の向上を図るため。				

3 組織

(単位：人)

		理事・ 取締役	監事・ 監査役	計	内訳			
					プロパー	市派遣	市兼務	その他
役員	常勤	—	—	—				
	非常勤	4	1	5	4		1	
	計	4	1	5	4		1	
職員	正職員	—	—	5	5			
	臨時職員	—	—	2	2			
	パート職員等	—	—	1	1			
	計	—	—	8	8			

4 主な事業

(1) 酒類の製造・販売
(2) 道の駅よしかわ杜氏の郷の管理運営
(3) 米穀類、山菜、きのこ及び農水産物の集荷及び加工、販売並びに研究開発
(4) 四季菜の郷（区内農家が農産物等を持ち込む販売施設）の管理運営

5 事業実績（概要）

- ・ 営業収益（売上高）は、前期の同時期との比較で2,151千円減（3.2%減）の66,017千円となりました。
- ・ 主力である酒造部門の売上高は、54,104千円となりました。清酒業界における出荷数量の継続的な減少という厳しい経営環境ではありますが、各種イベントへ積極的に出店したほか、吉川区内での販売促進を目的に実施した会社設立20周年感謝セールと春のキャンペーンでは地元の小売店とタイアップし、一定の成果を得ることができました。また、ロンドン酒チャレンジ2019に出品した「天恵楽特別純米酒」が最高位にあたるプラチナ賞を、上越酒蔵研究会では「大吟醸酒」が第1位を受賞するなど、主力商品は高評価をいただき、翌期以降の販路拡大に期待を持てる結果となりました。
- ・ 売店部門の売上高は、8,255千円となりました。前期に引き続き、鶴の浜温泉旅館と連携した宿泊客の誘客や観光会社への営業展開、定期的なイベントを実施した結果、店舗利用者数では前期の同時期と同程度の7,123人となりました。
- ・ 販売費及び一般管理費は、旅費や人件費等の全面的な見直しを行い、前期の同時期との比較で278千円減（0.9%減）となりました。
- ・ この結果、営業損失は3,933千円、最終的な当期純損失は3,199千円となり、4期連続の単年度赤字を計上し、第21期末の累積欠損金は75,556千円となりました。

○ 部門別売上高実績

（単位：千円）

区 分	第19期 (H28.7～H29.6)	第20期 (H29.7～H30.6)	第21期 (H30.7～H31.3)
酒造部門	71,009	73,766 (54,391)	54,104
アイス部門	2,337	—	—
売店部門	11,394	11,503 (8,405)	8,255
その他	7,532	7,176 (5,372)	3,658
合 計	92,272	92,445 (68,168)	66,017

※ カッコ内は、第21期と同時期（7月～翌年3月）の売上高実績です。

※ アイス部門は、第19期途中で自社製造を取り止めたため、第20期から部門を廃止しました。

※ その他の内訳は、市からの委託料や農産物販売所よしかわ四季菜の郷の管理料などです。

○ 店舗利用状況

（単位：人）

区 分	第19期 (H28.7～H29.6)	第20期 (H29.7～H30.6)	第21期 (H30.7～H31.3)
店舗利用状況	11,469	10,820 (7,704)	7,123

※ カッコ内は、第21期と同時期（7月～翌年3月）の利用状況です。

6 財務状況

(単位：千円)

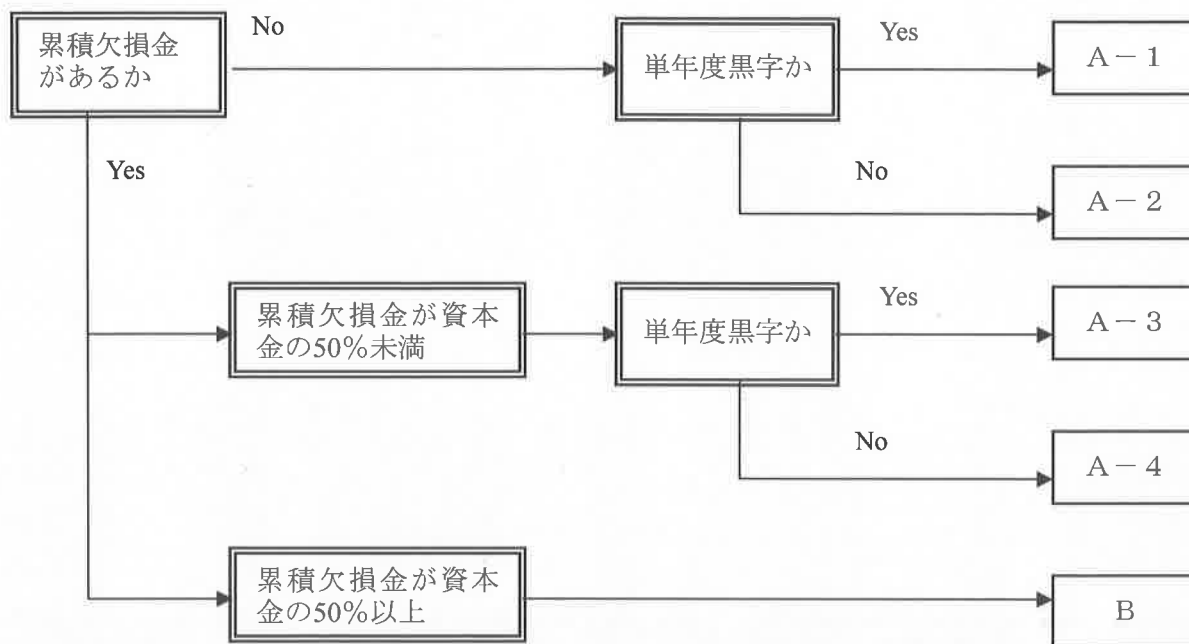
項目	第19期	第20期	第21期	備考	
	自平成28年7月1日 至平成29年6月30日	自平成29年7月1日 至平成30年6月30日	自平成30年7月1日 至平成31年3月31日		
損益計算書	営業収益(売上高)	92,272	92,445 (68,168)	66,017	
	営業費用	96,515	102,391 (72,629)	69,950	
	売上原価	57,226	64,386 (42,699)	40,298	
	販売費及び 一般管理費	39,289	38,005 (29,930)	29,652	
	営業利益	△4,243	△9,947 (△4,461)	△3,933	
	営業外収益	805	1,781 (1,631)	992	
	営業外費用	379	75 (58)	41	
	経常利益	△3,817	△8,241 (△2,887)	△2,982	
	特別利益	0	0	0	
	特別損失	250	0	0	
	税引前当期利益	△4,067	△8,241	△2,982	
	法人税等	290	290	217	
	当期利益	△4,357	△8,531	△3,199	
項目	平成29年6月30日現在	平成30年6月30日現在	平成31年3月31日現在	備考	
貸借対照表	資産	136,744	126,135	123,250	
	負債	16,421	14,342	14,656	
	純資産	120,323	111,793	108,594	
	資本金	184,150	184,150	184,150	
	剰余金・欠損金	△63,827	△72,357	△75,556	
その他	0	0	0		

※ 第21期は、事業年度変更に伴い、9か月決算となっています。

※ カッコ内は、第21期と同時期(7月～翌年3月)の財務状況です(参考値)。

7 経営状況の予備的診断

予備的診断フロー



評価	A-4
----	-----

	評価基準	備考
A-1	累積欠損金がなく、単年度黒字の場合	引き続き経営努力を行う。
A-2	累積欠損金がなく、単年度赤字の場合	複数年の経過を注視しながら引き続き経営努力を行う。
A-3	累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度黒字の場合	経営改善の努力を要する。
A-4	累積欠損金が資本金の50%未満で、単年度赤字の場合	経営改善の一層の努力を要する。
B	累積欠損金が資本金の50%以上の場合	事業の見直し等も含めた抜本的な経営改善を要する。

※ この評価に関連する特殊な事情又は要因など特記すべき事項

4期連続で単年度赤字を計上し、第21期末の累積欠損金は75,556千円となり、資本金184,150円に対する比率は41.0%になりました。

8 市の関与の状況

(1) 市の委託額

(単位：千円)

内訳		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	備考
①	道の駅よしかわ杜氏の郷 管理業務委託料	3,237	3,237	3,287	
計		3,237	3,237	3,287	

(2) 市の財政援助額

(単位：千円)

内訳		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	備考
①	補助金（助成金）	0	296	0	上越市雪室商品等 開発支援事業補助金
②	貸付金	0	0	0	
③	損失補償	0	0	0	
④	債務保証	0	0	0	
⑤	その他（ ）	0	0	0	
計		0	296	0	

9 今後の経営計画等

(1) 次期事業計画

第 22 期は、営業収益（売上高）92,956 千円、当期純利益 518 千円の計上を目標とし、良質な日本酒の製造はもちろんのこと、ラベル・器などを見直し、記念酒企画等に取り組みます。

また、酒蔵と店舗を一体的に経営している強みを生かし、来場動機を高める定期的なイベントの開催や、立ち寄り者数の増加に繋がる近隣ホテルへの営業を強化し、今後の経営基盤の確立に向けた取組を行います。

- (1) 安定的な取引基盤の確立 … 生協等の組織団体への新企画商品の提案とキャンペーンの実施、市内外取引店舗への営業強化 など
- (2) 新たな需要開拓に向けた取組 … ネット販売強化、雪室仕込みのセット商品化と販売先の拡大 など
- (3) 店舗売上向上の推進 … 立ち寄り団体の集客、イベント開催及び情報発信 など
- (4) 組織の活性化 … 社員の横断的業務の実施による効率化の推進、損益計画目標に対する検証と実行 など

【各部門売上目標額】

酒造部門	77,920 千円
売店部門	12,000 千円
その他	3,036 千円

(2) 中長期経営計画

なし

第21期営業報告について

今期の国内景気は緩やかな回復傾向で推移したものの、政府が発表した本年3月における景気動向が6年ぶりに「悪化」に引き下げられるなど、経済情勢は不透明感が増しており、地方経済においては相変わらず消費の低迷が続き、全体として弱い動きとなっております。

清酒業界を取り巻く環境は、県産日本酒の国内出荷量が4年連続減少し、1996年(平成8年)の80,371KLをピークに減少に転じ、2018年(平成30年)にはおよそ39,735KLと半減しました。これらは、日本酒以外の代替品との酒類間競争の激化に加え、消費者の低アルコール志向など消費傾向の変化によるもので、業界全体の厳しい経営状況の背景ともなっております。

このような中、弊社では第20期において、余剰となり品質劣化が懸念された在庫の整理を行い品質保持を図る一方で、第21期においては自社製品の販売促進に努めてまいりました。その概要は、以下のとおりです。

まず、新たな売上向上に向けた取組として、「羽田空港試飲会」や「東武百貨店試飲会」など利幅が大きく、売上を見込むことのできるイベントへ積極的に出向いたほか、地元での売上を強化するため、吉川区内並びに近隣区へのチラシの折込みやメディアへの情報提供を行いながら、店舗イベントを年5回、フェアを2回実施しました。

特に、吉川区内での販売促進を目的とする限定販売イベントとして、昨年11月と本年3月に行った会社設立20周年感謝セールと春のキャンペーンでは、地元の小売店とタイアップし、一定の成果を得ることができました。

また、区外近隣地域での売上確保に向けた取組として、引き続きルートセールスを継続し、県内のホテル、スーパー、居酒屋などを含め販売先の確保に努めたほか、年

間を通して安定的な数量を販売できる新たな取引先として、商社及び大手ネット通販会社と契約することができ、酒部門の売上の向上に結びつきました。

自社店舗への誘導策としては、団体集客のため長野県を中心に旅行会社への営業活動を行うとともに、鶴の浜温泉の旅館やホテルに酒蔵のチラシの部屋置きを依頼して来店者の増加を図りました。さらに、酒造りの工程から出る副産物を有効活用した「酒粕パウダー」や「酒粕入りパン」、「梅酒の梅肉」などの商品販売が好調で、店舗への来場動機の向上に寄与したものと考えております。

酒自体の商品価値を高める取組としては、市が設置した雪室に純米酒と純米吟醸酒を2,500本貯蔵し、雪中熟成酒として好評のうちに完売しました。あわせて純米梅酒も実験的に3か月間、雪中貯蔵した結果、香り・味ともに好評価を得ることが出来、いずれも今後の売上増加に期待をつなぐ結果となりました。

海外からの引き合いに関しては、少量ではありますが徐々に増加する傾向にあるものの、商社を通しての販売が圧倒的に多いため、有利な取引に結びつかず、販売網の厳しい現実を打破するまでには至りませんでした。

第21期の決算は、第3セクター各社の会計期間を「年度」に統一するという市の方針に沿って、決算期間を昨年7月から本年3月までの9か月といたしました。本報告においては、対比を容易なものとするため、12か月間を計上した前期・第20期の決算について、今期・第21期と同じ期間の9か月間で再計算し、表1のとおり整理いたしました。

以下、第21期の決算概況につきましては、まず、売上は66,017千円で、第20期の同期に比べ、2,151千円の減少となりました。これは、日本酒需要の減少傾向に加え、昨年まで上位を占めていた地元団体や生協への売上が減少したことが主な要因であり、さらに、例年開催されてきた恒例の「越後吉川さけまつり」が台風の影響で中止となったことも売上を落とす要因となりました。

このように売上が伸び悩む一方で、旅費・人件費など、販売費や一般管理費については、全面的な支出見直しを行った結果、第21期の決算額は29,652千円となり、第20期同期比で278千円の削減が図られました。しかしながら、施設設備が20年を経過し、蔵内設備を中心に経年劣化が進んでいることから、来期以降は修繕費の増加など経費の増大が見込まれるものと考えております。

以上のことから、第21期の損益は、第20期同期とほぼ同額となる3,199千円の損失を計上するところとなりました。

区 分	売上高	売上総利益	販売費及び一般管理費	当期純利益(損失)
第21期 ① H30.7月1日～H31.3月31日 (9ヶ月)	66,017	25,719	29,652	△ 3,199
第20期 ② H29.7月1日～H30.3月31日 (9ヶ月)	68,168	25,468	29,930	△ 3,177
※ H30.4月1日～H30.6月30日 (3ヶ月) ③	24,276	2,590	8,075	△ 5,354
※第20期総計 (12ヶ月②+③)	92,444	28,058	38,005	△ 8,531
第20期と第21期の比較 ①-②	△ 2,151	251	△ 278	△ 22

次に、第21期の決算状況を部門ごとに詳述します。

(1) 酒部門

売上は、54,104千円と前年比では73.3%と大幅な減少となっておりますが、これは、上記でも記載したとおり、今期は昨年7月から本年3月までの9か月決算のため、新酒の販売が本格化する4月以降の売上が計上されていないことによるものです。

こうした中であっても、酒の限界利益率が昨年の54.1%から64.2%へと約10ポイント向上し、第19期並みの水準に戻すことができました。

また、第21期の酒の販売量は59,356Lで本年3月時点での在庫は65,198Lとなっております。決算期が新酒の販売が本格化する前の3月へ移行したことから、在庫

が増えておりますが、これまでの決算月である本年6月までには出荷・販売が進み、在庫は昨年並みの数量となる見通しです。

催事・イベント等での売上は<表-2>のとおりです。新たなイベントへの参加や地元区民の皆さんへのキャンペーン企画などにより、第20期同期との比較では微増となりました。

こうした中、本年3月にロンドン酒チャレンジ2019に出品した「天恵楽特別純米酒」が最高位にあたるプレミアム賞を受賞したほか、上越酒造研究会では「大吟醸酒」が第1位を受賞するなど、主力商品は高い評価を受けることができました。地元の酒として親しんでくださる根強いファンを大切にしながら、県外での催事などの機会をとらえ、今後も受賞を前面にアピールした販路拡大に努めてまいります。

	7		8		9		10		11		12	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
大新潟まつり実行委員会	0	0	0	0	1	1,189	2	861	2	1,446	2	1,391
試飲販売会	1	140	2	429	2	638	1	107	6	953	5	690
イベント	1	686	1	1,530	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2	826	3	1,959	3	1,827	3	968	8	2,399	7	2,081
	1		2		3		合計					
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額				
大新潟まつり実行委員会	1	2,159	0	0	1	1,971	9	9,017				
試飲販売会	3	261	5	1,840	4	409	29	5,467				
イベント	0	0	0	0	2	635	4	2,851				
計	4	2,420	5	1,840	7	3,015	42	17,335				

※参考 第20期同期(2017年7月～2018年3月)金額合計 16,975千円

酒類及び販売先別の売上は<表-3>のとおりです。これまで増加傾向にあった純米と吟醸系がほぼ横ばいの状況にある中で、大辛口や普通酒など値ごろ感のある商品や料理酒の売上が増加傾向にあり、引き続き、消費者ニーズに即した商品の提供に努めてまいります。

販売先別では、決算期の3月への移行に伴い、自社店舗での販売が16%と低下した一方で、イベント・催事が21%と増加しています。また、酒卸問屋や県内ホテル

などへの販売割合が減少していることから、お客様への商品提供力を高めるとともに、安定受注先の確保が引き続き課題となっております。

あわせて、利益率の高い店舗の売上をさらに伸ばすため、魅力あるイベントの工夫とともに、道の駅全体の連携した取組も重要となっております。

酒類別売上表(比率順位順)				同上位販売先			
	商品名	売上(千円)	比率		販売先	売上(千円)	比率
1	よしかわ杜氏大辛口	12679	23%	1	イベント・催事	11,367	21%
2	よしかわ杜氏大吟醸	5,212	10%	2	自社店舗	8,832	16%
3	よしかわ杜氏普通	5,033	10%	3	パルシステム	6,000	12%
4	天恵楽純米酒	4,603	9%	4	得意先	4,867	9%
5	天恵楽特別純米酒	4,091	8%	5	酒卸問屋	3,391	6%
6	料理酒	4,078	8%	6	JA、市役所	3,157	6%
7	天恵楽純米吟醸酒	3,312	5%	7	県内道の駅直売所	1,380	2%
8	その他9品種	15,096	27%	8	その他約40先	15,110	28%
	合計	54104	100%		合計	54104	100%

(2) 売店部門

積極的にイベントの開催に取組み、知名度の向上と立寄り客来場のアップに努めた結果、第20期同期に比べ、ほぼ同数の7,100人余りのお客様をお迎えすることができました。

なお、本年5月のゴールデンウィークにおいては、観光酒蔵としての特性を生かし、酒をテーマにしたクイズラリーや有料で高価格帯の酒を試飲できる立飲みバーなどの企画を実施し好評を得ることができました。

引き続き創意工夫をもって業績向上に取り組んでまいります。

＜店舗利用状況＞

(単位：人)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	期合計
H29	1,027	1,685	895	1,345	911	516	209	281	535	7,704
H30	1,021	1,477	898	1,078	997	526	247	357	522	7,123

第 21 期

決算報告書

平成 30 年 7 月 1 日から
平成 31 年 3 月 31 日まで

目 次

1. 貸借対照表および損益計算書
2. 株主資本等変動計算書
3. 個別注記表

所在地 新潟県上越市吉川区杜氏の郷1番地

商 号 株式会社 よしかわ杜氏の郷

代表者名 代表取締役 土橋 均

貸借対照表

代表取締役 土橋 均

平成31年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
I 流 動 資 産 (60,693,603)	I 流 動 負 債 (8,378,645)
現金及び預金	5,395,684	買掛金	1,676,296
電子記録債権	541,967	1年以内返済長期借入金	2,436,000
売掛金	10,286,500	未払法人税等	3,847,601
たな卸資産	44,201,810	未払消費税等	217,500
前払費用	250,374	未払消費税	156,800
未収入金	17,258	前受	44,448
未収還付法人税等	10		
II 固 定 資 産 (62,555,982)	II 固 定 負 債 (6,277,556)
有形固定資産 (60,750,595)	長期借入金	2,459,000
建物	36,087,737	長期未払金	3,818,556
構築物	2,815,499		
機械及び装置	2,849,769		
車両運搬具	1		
工具、器具及び備品	238,746		
土地	15,898,270		
リース資産	2,860,573		
無形固定資産 (1,687,167)	負債の部合計	14,656,201
リース資産	1,347,500	(純 資 産 の 部)	
ソフトウェア	299,667	I 株 主 資 本 (108,593,384)
電話加入権	40,000	1. 資 本 金	184,150,000
		2. 資 本 剩 余 金 (0)
投資その他の資産 (118,220)	3. 利 益 剩 余 金 (△	75,556,616)
投資有価証券	50,000	(I)その他利益剰余金 (-75,556,616)
出資	60,000	繰越利益剰余金 △	75,556,616
リサイクル預託金	8,220		
		II 評 価 ・ 換 算 差 額 等 (0)
III 繰 延 資 産 (0)	III 新 株 予 約 権 (0)
		純 資 産 の 部 合 計	108,593,384
資産の部合計	123,249,585	負債・純資産の部合計	123,249,585

損益計算書

平成30年 7月 1日から
平成31年 3月 31日まで

(単位：円)

科 目	金 額		
I 売上高 売上戻り	66,327,619	△ 66,327,619 309,902	66,017,717
II 売上原価 仕入 当期製品製造原価 期末たな卸 売上総利	5,490,547 3,706,300	36,051,618 9,196,847 32,770,562 78,019,027 37,720,578	40,298,449 25,719,268
III 販売費及び一般管理費 販売費及び一般管理費 営業損失		29,652,089	29,652,089 3,932,821
IV 営業外収益 雑収入		85 991,811	991,896
V 営業外費用 支払替 利息差		40,749 7	40,756
経常損失			2,981,681
VI 特別利益		0	0
VII 特別損失 固定資産除却		1	1
税引前当期純損失			2,981,682
法人税、住民税及び事業税		217,500	217,500
当期純損失			3,199,182

販売費及び一般管理費の計算内訳

製造原価報告書

平成30年 7月 1日から
平成31年 3月 31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
販売費	1,029,629
旅伝装達数	3,795,916
旅伝装達数	2,865,366
旅伝装達数	2,673,050
旅伝装達数	1,139,268
旅伝装達数	1,452,000
旅伝装達数	7,214,664
旅伝装達数	1,300,561
旅伝装達数	1,231,400
旅伝装達数	564,006
旅伝装達数	1,096,013
旅伝装達数	162,000
旅伝装達数	334,162
旅伝装達数	305,807
旅伝装達数	385,623
旅伝装達数	878,137
旅伝装達数	1,072,450
旅伝装達数	1,000
旅伝装達数	644,449
旅伝装達数	58,207
旅伝装達数	295,772
旅伝装達数	367,828
旅伝装達数	495,220
旅伝装達数	289,561
合 計	29,652,089

平成30年 7月 1日から
平成31年 3月 31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
I 材料	3,290,719
期首材料たな卸高	14,475,696
期末材料たな卸高	17,766,415
当期材料たな卸高	3,229,880
当期材料たな卸高	14,536,535
II 労務	8,633,997
労賃	1,287,810
法定福生	652,607
当期労務	10,574,414
III 経電	2,408,917
ガ水道償却	38,732
水減価	95,227
修租保消	2,044,617
租保消	197,465
保消	957,180
消	112,824
当	1,640,575
期	225,000
期	7,720,537
当期総製造費用	32,831,486
期首仕掛品たな卸高	498,675
合 計	33,330,161
期末仕掛品たな卸高	559,599
当期製品製造原価	32,770,562

たな卸資産の計算内訳

平成31年 3月 31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商製半原仕貯	591,835
製材(半成品)	7,070,149
蔵	30,058,594
蔵	3,229,880
蔵	559,599
蔵	2,691,753
合 計	44,201,810

株主資本等変動計算書

平成30年 7月 1日から

平成31年 3月 31日まで

(単位:円)

I 株主資本			
1. 資本金	当期首残高		184,150,000
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>184,150,000</u>
2. 利益剰余金			
(1) その他利益剰余金	当期首残高		-72,357,434
繰越利益剰余金	当期変動額		
	当期純損失	-3,199,182	-3,199,182
	当期末残高		<u>-75,556,616</u>
その他利益剰余金合計	当期首残高		-72,357,434
	当期変動額		
	当期純損失	-3,199,182	-3,199,182
	当期末残高		<u>-75,556,616</u>
株主資本合計	当期首残高		111,792,566
	当期変動額		
	当期純損失	-3,199,182	-3,199,182
	当期末残高		<u>108,593,384</u>
II 評価・換算差額等			
	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>0</u>
III 新株予約権			
	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>0</u>
純資産の部合計			
	当期首残高		111,792,566
	当期変動額		
	当期純損失	-3,199,182	-3,199,182
	当期末残高		<u>108,593,384</u>

個別注記表

平成30年 7月 1日から
平成31年 3月 31日まで

I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. たな卸資産の評価基準及び評価方法
最終仕入原価法による原価法を採用しております。
2. 固定資産の減価償却方法
 - (1)有形固定資産
定率法又は旧定率法を採用しております。
ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法を採用しております。
 - (2)無形固定資産
定額法を採用しております。
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用期間（5年）に基づく定額法を採用しております。
 - (3)リース資産
法人税法の規定に基づくリース期間定額法を採用しております。
3. 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

II. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 148,144,436円

III. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数 3,683株

IV. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、29,485.03円であります。
2. 一株当たり当期純損失は、868.63円であります。

以上

監査報告書

私は、平成30年7月1日から平成31年3月31日までの第21期事業年度の当該事業年度に係る事業報告及び計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表、及びその附属明細書）その他会計に関する一切の証憑・帳簿及び関係書類を監査いたしました。

監査結果

(1) 事業報告書等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、会社の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

令和 / 年 5 月 22 日

株式会社 よしかわ杜氏の郷

監査役 山下 悟 (印)

第22期事業方針及び事業計画について

1 事業方針

弊社は、越後杜氏、くびき杜氏の支流源の一つである「よしかわ杜氏」が育んだ、元禄4年から続く酒造りの歴史をもとに、地元よしかわ産の「五百万石」や「山田錦」の酒米と、ブナ林の伏流水、よしかわ杜氏の技術など潤沢で高品質な地域資源を有し、酒蔵としては創業1999年と後発であるが、コメ・水・技の全てをよしかわで完結した日本酒を製造しています。

酒造業界においては、若者を中心に日本酒離れが一層進み、加えてヘビーユーザー層の高齢化や代替品との競争により、日本の国内清酒消費量はピーク時の半分に減少するなど、経営環境は厳しい状況下にあります。

加えて、製造資材の相次ぐ値上げと10月に予定されている消費税率の引き上げを見据え、弊社においても、原価率を再度見直して価格改定を実行し、利益率を維持することが求められます。

また、良質な日本酒の製造はもちろんのこと、マーケットに受け入れられるためラベル・器などを見直し、定番商品の見直しと記念酒企画等の取組や、来場動機を高めるため自社単独に加え、道の駅関係団体と共催イベントを開催し立ち寄り来場者アップを図ります。

あわせて、数年来売上が低迷している状況下において、永続的に酒造り文化の継承と地域経済への貢献のため、今後の経営形態について地域の想いと会社の在り方について、引き続き関係機関を含め検討いたします。

2 事業計画

(1) 安定的な取引基盤の確立

- ① 生協・JA 等の組織団体への新企画商品提案とキャンペーンの実施
- ② 市内外取引店舗への営業強化
- ③ 道の駅等試飲販売会や催事でのプロモーションを通じた販売促進

(2) 新たな需要開拓に向けた取組

- ① ホームページネットショッピングをリニューアルしネット販売強化
- ② 海外への輸出(パリ・香港・ベトナム等)
- ③ デパート等ネットワークを活用したマーケットの構築
- ④ 雪室仕込みのセット商品化と販売先の拡大
- ⑤ 大手通販サイト(アマゾン他)との取引拡大

(3) 店舗売上向上の推進

- ① 観光酒蔵としての情報発信と近県旅行会社へのセールス
- ② 立ち寄り団体集客のため近隣ホテルへの営業強化
- ③ 定例的に自社及び道の駅関係団体との共催イベントの開催
- ④ 商品構成・陳列の整理と積極的なセールストークの実践
- ⑤ 販売促進物の制作とメディアへの告知

(4) 組織の活性化

- ① 社員の横断的業務の実施による効率化の推進
- ② 施設内外の衛生管理と整理整頓の実施
- ③ 損益計画目標に対しての検証と実行

目標変動損益計算書
第22期(平成31年4月1～令和2年3月31日)

(単位:千円)

項目	内訳	当期計画	構成比	構成比	平成31年3月31日決算		
売上高	酒部門	77,920	83.8%		54,104	82.0%	
	売店部門	12,000	12.9%		8,255	12.5%	
	その他部門	3,036	3.3%		3,658	5.5%	
	売上合計	92,956	100.0%		66,017	100.0%	
変動費	期首棚卸高	41,511			39,842		
	商品仕入高	7,800			5,489		
	酒税	5,600			3,706		
	材料仕入高	18,600			14,475		
	消耗品費	2,100			1,640		
	期末棚卸高	41,535			41,511		
	変動費合計	34,076	36.7%		23,641	35.8%	
限界利益	酒部門	51,644	66.3%		35,905	66.4%	
	売店部門	4,200	35.0%		2,810	34.0%	
	その他部門	3,036	100.0%		3,658	100.0%	
	限界利益合計	58,880	63.3%	100.0%	42,373	64.2%	100.0%
固定費	役員報酬	1,620			1,452		
	給与・賞与、雑給与、賞金	23,062			17,149		
	法定福利費、厚生費	5,078			3,736		
	人件費合計	29,760	32.0%	50.5%	22,337	33.8%	52.7%
	製造経費	4,839			3,725		
	販売管理費	19,052			16,238		
	営業外収益	-1,006			-951		
	その他固定費計	22,885	24.6%	38.9%	19,012	28.8%	44.9%
	減価償却費	4,284			3,141		
	保険料・維持費	1,433			864		
	設備費計	5,717	6.2%	9.7%	4,005	6.1%	9.5%
固定費計	58,362			45,354			
経常利益		518	0.6%	0.9%	-2,981	-4.5%	-7.0%